

「プログラミング ガールズ！」シリーズ第4巻 『エリン 才能発掘、タレントショー』

石戸奈々子(NPO法人CANVAS理事長)監修 発刊のお知らせ

2020年3月5日、(株)偕成社より石戸奈々子(CANVAS理事長)が監修を務めた「プログラミング ガールズ！」シリーズ第4巻『エリン 才能発掘、タレントショー』が発売されました。ぜひ貴社媒体を通じて、本書を広くお知らせいただきたく、ご検討くださいますようお願い申し上げます。

概要

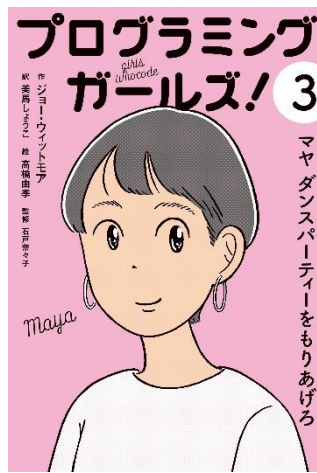


シリーズ最終巻のテーマは、アプリ制作。この新たな試みに挑戦するプログラミング・クラブのメンバーたちは、「どうすれば多くの生徒たちに投票してもらえるか？」「候補者を公正にえらぶ評価方法とは？」などのさまざまな課題を洗い出し、工夫を重ねます。持てるプログラミングの技術を使って、学校の行事をより活気のあるイベントにしようと頭をしぼるミドルスクールの生徒たちの、汗と涙の物語です！

※原出版国アメリカでは2017年8月の発売後すぐに、NEW YORK TIMES BESTSELLERSの児童書部門第10位にランクインした、新感覚プログラミング小説です。

【あらすじ】

生徒がそれぞれの特技や作品を発表する学校行事、タレントショー。今年は、参加者がまず自分の出し物の動画を作ってウェブアプリに投稿し、全校生徒がそれに投票して決勝戦に進むファイナリストを決めるという予選が行われることになった。そのためアプリを開発するのは、もちろんプログラミング・クラブ！ クラブのメンバーで俳優志望のエリンは、舞台の上でパフォーマンスすることを誰よりも楽しみにしていたが、同時に、アプリをプログラミングする仕事も引き受け、手一杯になっていた。でも、それは計算済み。忙しくしていれば、いつも頭から離れない「あの不安」を忘れられる—そう思っていたエリンだったが、ある日恐れていた発作が起きてしまう。



シリーズは全4巻で、語り手が各巻で交代していきます(1巻はルーシー、2巻はソフィア、3巻はマヤ、4巻はエリン)。家庭の事情があったり、じつは適応障害をかかえていたりなど、人には言えないそれぞれの悩みが明かされていきますが、いつも涙ぐましいまでに一生懸命な彼女たちの姿は新鮮で、魅力的です。

【編集者よりひとこと】

プログラミングと友情を主軸にするこのシリーズですが、裏テーマとして多分に意識されているのは、人種やジェンダー、宗教などの問題について「マイノリティを尊重し、多様性を認め合おう」ということです。

プログラミング・クラブの仲良し5人組は、人種的にはアフリカ系、ラテン系、アジア系、ヨーロッパ系、中東系とみんな違います。顧問の先生もレバノンからアメリカに渡ってきた人だし、クラブにはイスラム教徒もいれば、ユダヤ教徒もいます。家族の形もさまざま。3巻に出てくるニコールのおばさんは、女性のパートナーと暮らしています。ソフィアの家は経済的に苦しく、エリンは両親の離婚で辛い思いをしています。マヤは母親の再婚相手と良好な関係を築いていますが、そこにはある一線が引かれてもいます。そんなマヤは4巻で、同級生の女子に恋心を抱きます。

登場人物たちがその違いをこえて、というより、その違いをあまり意識することなく、自然にお互いを受け入れている様子はとても心地よく、(現実的とはいえないかもしれないけれど)今のアメリカ社会の最先端の良心を提示したいという制作者たちの熱い志を感じます。それも読みどころの1つです。

【書籍データ】

「プログラミング ガールズ！」シリーズ第4巻『エリン 才能発掘、タレントショー』

ステイシア・ドイツ (著), 美馬しょうこ (翻訳), 高橋由季 (イラスト), 石戸奈々子 (監修)

発売日: 2020年3月5日

定価: 1,200円+税

発行元: (株)偕成社

Amazon: <https://www.amazon.co.jp/dp/4037269503>

偕成社サイト: <https://www.kaiseisha.co.jp/books/9784037269500>

【監修者プロフィール】



石戸奈々子(いしど・ななこ)
NPO法人CANVAS理事長/ 一般社団法人超教育協会理事長
慶應義塾大学教授、博士(政策・メディア)

東京大学工学部卒業後、マサチューセッツ工科大学メディアラボ客員研究員を経て、NPO法人CANVAS、株式会社デジタルえほん、一般社団法人超教育協会等を設立、代表に就任。慶應義塾大学教授。

総務省情報通信審議会委員など省庁の委員多数。NHK中央放送番組審議会委員、デジタルサイネージコンソーシアム理事等を兼任。政策・メディア博士。

著書に「プログラミング教育ってなに? 親が知りたい45のギモン」「子どもの創造カス イッチ!」他、監修に「マンガでなるほど! 親子で学ぶ プログラミング教育」など多数。

これまでに開催したワークショップは3000回、約50万人の子どもたちが参加。

実行委員長をつとめる子ども創作活動の博覧会「ワークショップコレクション」は、2日間で10万人を動員する。

デジタルえほん作家&一児の母としても奮闘中。

<http://creativekids.jp/>

本件に関する一般及び報道機関からのお問い合わせ先

特定非営利活動法人CANVAS



CANVASはこどものための創造・表現の場を提供し、豊かな発想を養う土壌を育てることを目標として設立されたNPOです。これまで50万人のこどもたちにワークショップに参加いただきました。こどもたちに新しい表現を生み出してほしい、新しい世の中を築いてほしい。そんな願いを叶えるため、産官学さまざまなプレイヤーのみなさまと連携しながら「未来をつくる」プロジェクトを生み出しています。

CANVASホームページ <https://canvas.ws/>

問い合わせメールアドレス information@canvas.ws